白根署管内における交通事故状況

夏期における交通事故多発に伴ない、月潟村交通安全対策協議会では、去る八月九日（火）村内で夏の交通事故防止運動の一貫として、交通安全指導所を設置し、ドライバー一人一人に安全運転を呼びかけを行ないました。

"この時期は"なにかと旅行やレジャーで車に乗る機会が多くなります。また、この時期に交通事故が集中しやすいことも事実です。

ここで62年、61年中での白根署管内での交通事故発生状況を見て見ます。

1，発生状況

発生件数	62年	195件
	61年	193件
死者数	62年	4人
	61年	3人
傷者数	62年	237人
	61年	254人

※ 62年中の新潟県内では

発生件数	11311件
死者数	229人
傷者数	13424人

と、発生件数、傷者数は増微ながら過去10年間の最多記録となっています。

2，月別

注（ ）の数字は死者数

白根署管内

年別＼月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
62年	7	13	14	16	20	(1) 27	14	(1) 17	16	(1) 14	16	(1) 21	(4) 195
61年	5	9	14	16	(1) 14	13	18	25	(1) 20	(1) 22	14	23	(3) 193

3 違反別

62年中の死者数を見ますと、計4人の内6月～9月の期間で2人という結果がでています。

62年中

一位…わきみ（死者2人）
二位…一時不停止
三位…信号無視

61年中

一位…わきみ（死者2人）
二位…一時不停止
三位…信号無視

見てのとおり、わきみ運転が圧倒的に多く、それに伴なう死者数が年間死者数の半数以上をしめているのです。

4 道路別

注…（ ）は死者数

年別＼道路別	62年	61年
国道	75 (3)件	74 (1)件
県道	54 (1)件	63 (1)件
市町村道	57 件	53 (1)件
その他農道	9 件	3 件
合計	195 (4)件	193 (3)件

注目すべきことは、味方村～月潟村を縦貫する広域農道5号線等の整備に伴なう交通量の増大により「農道」は61年3件、62年9件と3倍にも達しているというところにあります。

時間別で見ると、交通のとだえている「深夜」にわずか4件の事故発生（全体の2.1%）、に過ぎない反面「夕方」のラッシュ時間前後に68件（全体の34.9%）死者数2人（全体の50%）と最も危険な時間帯となっています。

ドライバーの皆さん村内だけでなく村外、県外へ行かれても、安全運転をよろしくお願いいします。

今年は住宅統計が行われます

……10月1日現在……

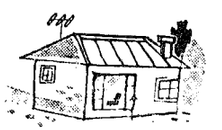
今年は、昭和二十三年以来五年ごとに行われている「住宅統計調査」の年です。この調査は、我が国の住宅と世帯の居住状況を明らかにするために行われるもので、全国の約三百七十万世帯を対象とする大規模な調査であることから"住宅の国勢調査"ともいわれています。

調査の結果は、国、都道府県、市区町村の住宅建設計画や環境整備計画などの立案の基礎となる資料として幅広く利用されます。

調査の対象となった世帯には、九月二十三日から三十日の間に、都道府県知事から任命された調査員が、調査票をもって訪問します。記入していただいた調査票は、十月一日から七日の間に、再び調査員が回収にうかがいます。

対象となった世帯の方は、調査へのご協力をお願いします。

◎ 月潟村の調査地域は
・七軒町～三番町
・木滑下
の2ケ所ですのでよろしくお願いいたします。



会津村を探索

村文化財視察

7月10日、月潟村公民館主催の文化財視察に40人が参加し開催されました。

昨年に引き続いて福島県の文化を探索しようと今回は、会津若松市の手前にあるやすらぎの郷「会津村」を訪れました。

この会津村は、10年余りの歳月をかけて築かれた大庭園で、一万体の十二支御守本尊を記る万物の母なる御身丈57米の会津慈母大観音像やスリランカ国より寄贈されたボルンナルワ、ガルブイハラの巨大釈迦横臥像、承応4年（一六五八年）に建立された御堂を解体移転した地蔵尊堂、一〇〇〇点余りの農耕具が展示されている民俗資料館など、数多くの建造物が設置されてありました。

現地迄、車で三時間余りのところです。機会がありましたら一度訪ねてみたらいかがでしょうか。

大別当子供会親子キャンプ

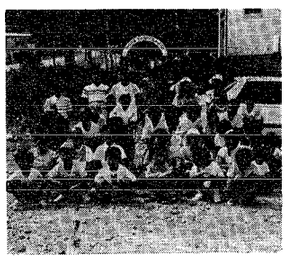
（東蒲原郡鹿瀬町　角神湖畔青少年旅行村）

親子キャンプを通して地域の親子同志の「ふれあい」を深め、自主的、協力的な態度を養うを目的に、七月三十日三十一日の一泊二日間での角神で大別当子供会がキャンプを行ないました。

▲ ヤマメとり…とれたかな

参加者は、大人26人・子供33人の合計63人、テント設営から水炊、キャンプファイヤーと内容の充実したキャンプ、子供達にとって団体行動の難しさ、楽しさが体験できたことと思います。

三十一日の最終日には、ヤマメつかみどりと、疲れ顔はどこえやら午後の4時過ぎには月潟に到着しましたと。



▲ハイ！ポーズ

▲ 花火だぞ―

第10回「私たちの住むまち」絵のコンクール

（小・中学生の絵画作品募集）

NTT新潟支社では、小、中学生を対象に、住んでいるまちの風景、行事、人などを自由に表現してもらう「私たちの住むまち」絵のコンクールを、本年も新潟県、県教育委員会の後援をいただき実施します。

昭和54年から始まったこのコンクールは、毎年、参加校・作品数とも増えつづけ、昨年は、県内206の小・中学校から約5600点もの作品が寄せられました。

今年も多数のご応募をお待ちしております。

募集要項

○テーマ
「私たちの住むまち」
（風景・行事・人物）

○募集対象
新潟県内の小・中学校児童生徒

○作品
クレヨン・水彩など自由

○作品の大きさ
画用紙B3（台紙不要）

○締め切り
昭和63年9月16日（金）必着

○送り先
お近くのNTT窓口または新潟日報社広告局開発部「絵画コンクール」係へ
〒951 新潟市西堀通3番町
025-378-7711

○審査発表
10月中旬新潟日報朝刊、入賞者の所属校に通知します。

○作品展覧会
銅賞以上の入賞者の作品を一同に集め10月下旬に展覧会を開催します。

主催　NTT新潟支社
　　新潟日報社
後援　新潟県
　　新潟県教育委員会